

岐阜大学  
地域科学部・地域科学研究科

Gifu University  
Faculty of Regional Studies

FOREST



MAKE NEW STANDARDS.  
東海国立  
大学機構



岐阜大学

# contents

■ 学部長からのメッセージ	1	
学 部	学部案内	2
	学科紹介	3
	カリキュラムの概要	4
	授業科目一覧	5
	社会活動演習	6
	地域学実習	7
	専門セミナー	8
研 究 科	研究科案内	12
	専攻紹介	13
	カリキュラムの概要と授業科目一覧	14
■ 進学・就職	15	
■ 地域科学部の活動と成果	18	

FACULTY OF REGIONAL STUDIES  
FOREST  
GIFU UNIVERSITY

地域科学部

～学部長からのメッセージ～

## 気が多い人のための学部です

岐阜大学地域科学部は、1996年に日本で最初に「地域」という名称を冠して設置された地域系学部です。地域社会と人間文化が抱える課題を発見し、その解決を図るために、人文・社会・自然科学の多様な専門領域による文理横断的・学際的な教育研究が行われています。地域との連携を含むその教育研究活動は、地方創生と地域発展の鍵として社会的に大きく期待されています。

地域の諸問題を多種多様な観点から総合的に捉えることのできる人材を育てる地域科学部の卒業生は、もちろん公務員になる人が多いですが、他にも地元企業を中心に、金融・保険業、卸売業、小売業、製造業など、幅広い業種に就職しています。

地域科学部の2つの学科が提供するものは、免許や資格の取得を目指してきっちり固められたカリキュラムではなく、学生自身の興味に応じて学びたい分野の学習を深めていくことができる、自由度の高いカリキュラムです。地域政策学科に3つ、地域文化学科に2つ用意された履修系統に沿って多様な分野の科目を学ぶ一方、専門セミナーと卒業研究により、文系・理系の諸分野（経済学・法学・政治学・地理学・歴史学・人類学・社会学・教育学・心理学・哲学・文学・言語学・物理学・化学・生物学など）の中から、特定の分野を深く学んで専門性を高めていきます。

地域政策学科の履修系統は、「産業・まちづくり」「自治政策」「環境政策」の3つです。地域文化学科の履修系統は、「生活・社会」「人間・文化」の2つです。学科選択や専門セミナーの選択にあたっては、たとえば地域政策学科の「産業・まちづくり系統」で経済学を中心に学ぶ学生が、一方で「哲学」の専門セミナーに入って哲学関連の卒論を執筆するといった、学問分野の垣根を超えた選択も可能です。目標を一つだけに絞ってフルスピードでまっしぐらに進むタイプの人よりは、いろいろ寄り道しながらゆっくり研究を深めていくほうが好きな、気が多い人のための学部だと言えるでしょう。

地域科学部では多様な学問分野の科目を開講していますが、他学部や社会システム経営学環の開講科目を自由選択科目として履修したり、全学共通教育の単位互換制度を利用すれば、選択の幅はさらに広がります。岐阜大学地域協学センターが提供する「次世代地域リーダー育成プログラム」に参加して、「ぎふ次世代地域リーダー」の称号獲得を目指すのもいいでしょう。

そのほか地域科学部には、学外での実習を行う「社会活動演習」や「地域学実習」といった必修科目もあります。1年間の海外留学をしながらも4年間で卒業できる「国際教養プログラム」も用意されています。

地域の諸問題を解決するためには、あなたの理想を実現するうえでどんな制約があるかを把握し、それらの制約を取り払うにはどうすればいいかを考え、制約を取り払えないのなら、制約の中での解決策を模索することが重要です。お金も人手も足りない中で、たとえ理想には程遠くても、最善の策を見つけるために試行錯誤を繰り返す必要もあるでしょう。その一方で、制約と思われたものを逆手に取って、常識を打ち破り、誰も思い付かなかった意外な解決策を提案できることもあるでしょう。「～でなければならない」という常識に縛られて窮屈な思いをしている地域の人々を救うのは、非常識の提案ができる人です。あなたも地域科学部で学び、地域社会に対して生活の新しい遊び方を提案してみませんか。

なお地域科学部の上には、地域政策専攻と地域文化専攻から成る大学院の地域科学研究科（修士課程）があり、ここには地域科学部の卒業生だけでなく、他大学の卒業生や社会人、そして海外からの留学生が集まっています。地域科学研究科では、より高度な専門応用能力とより幅広い国際性の涵養を目指す教育・研究を通じて、高度専門職業人や研究者を育てています。



岐阜大学 地域科学部長  
大学院地域科学研究科長

内田 勝

# 地域科学部

## Admission Policy

### アドミッション・ポリシー（入学者選抜方針）

#### ■教育理念・目標

地域科学部は、「地域」がキーワードとなるさまざまな社会的及び文化的課題について、人文科学、社会科学ならびに自然科学の基礎学力をもとにして、総合的に考究する能力を育てることを目標としています。これにより発展的な地域創成や、豊かな社会形成に貢献でき、リーダーシップを発揮できる人の育成を目指します。

#### ■求める学生像

このような理念・目標のもと本学部の学生には、主に次のような資質を持っていることを望みます。

1. 人間社会の営みや自然との関わりに深い関心を持っている。
2. 物事をさまざまな視点から総合的かつ論理的に考えることができる。
3. 自ら課題を見つけ、その課題に対して積極的に取り組もうとする意欲を持っている。
4. 他者の考えをよく理解し、自己の意見を表現する能力を持っている。
5. 幅広い学問分野を学びながら、自己の専門分野を次第に決定してゆきたいという意欲を持っている。

## Curriculum Policy

### カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

文系分野を主とする学生は理系の知識を、理系分野を主とする学生は文系の知識も兼ね備えることで、総合的な視野と幅広い知識を修得します。このために、人文科学、社会科学、自然科学及びそれらの融合領域に関する多彩な科目を開設しています。

一定の分野に対する専門性を高めるため、また、学生自身が学問的関心や興味のある分野を選択して学ぶことができるように、学習の指針として5つの履修系統（産業・まちづくり系統、自治政策系統、環境政策系統、生活・社会系統、人間・文化系統）を提示します。これらの5つの履修系統に即した学習を促すことにより、地域の個別課題に対する分析力および対応力を育てます。また、多文化共生の社会で活躍できるようにするために、複数の言語を使った学修を行い、国際教養プログラムなどで国際的な視野や多様な地域の文化への関心を培います。

## Diploma Policy

### ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

教育課程において所定の単位数を修得するとともに、地域の社会や文化が抱えるさまざまな問題を、地域に根ざし地域から構想することで解決し、暮らしやすく平和で文化的に高度な地域社会を創り出すために必要な専門的能力を備えた人に学士の学位を授与します。

※抜粋（全文は本学部HPをご覧ください）

# 学科紹介

地域科学部は、地域が抱えるさまざまな問題を解決し、暮らしやすくして平和で文化的な地域社会を創出できる人材の育成を目的とした、日本で初めて「地域」という名称を冠した学部です。学ぶ範囲は広くかつ多様ですが、2年前学期からは地域政策学科、または地域文化学科に所属し、専門性を高めて行きます。中心的に学びを深める5つの履修系統に軸足を持ちながら関連するいろんな分野の勉強をしていきますので、深い専門性と同時に広い視野を身につけることができます。



## 地域政策学科

主に社会科学と自然科学の協同により、自然環境を含んだ地域社会の構造的な把握と分析そして政策形成の能力の習得を関連づける教育研究をおこない、持続可能な社会を展望しつつより良い地域社会の構築を提言できる人材の育成を目指します。

### 産業・まちづくり系統

地域経済の理解のためには、地域の産業や経済状況を把握しなければなりません。同時に日本や世界の経済動向や、経済システムを理解することも必要になります。本履修系統では、地域から世界までを見すえた視点で、産業構造や経済システムの理解を深め、時にはフィールドワークを行い、政策立案の基礎となる専門的な能力を獲得する教育内容を構成しています。

### 自治政策系統

分権時代の地域の政策課題は多様化しており、1つの専門的能力だけでは対応しきれなくなっています。本履修系統では、行政学、財政学、法律学など、問題解決の基礎となる専門分野をバランスよく配置して、住民参加のあり方やNPOとの協働など、地域の新しい課題解決のための方策について学び、色々な課題に積極的に取り組む人を育成する教育内容を構成しています。

### 環境政策系統

本履修系統では、物理学系、化学系、生物学系、都市・建築系などの理科系の基礎的な学力を身につけ、自然界の原理と法則、自然・地球環境、生活・都市環境を、数理的考察、フィールド調査、物理学や化学の実験、コンピュータシミュレーション等を通じて深く理解したうえで、科学的知識や技術を環境政策へ生かすことができる人を育成する教育内容を、体系的に構成しています。

## 地域文化学科

主に人文科学と社会科学の協同により、人間社会における思想や文化的な表現、及び歴史的な経験や行動などの規範と原理を分析し把握する教育研究をおこない、人間社会に関する的確で深い洞察力を備え、社会が抱える多様な課題の解決を展望できる人材の育成を目指します。

### 生活・社会系統

大きく変貌をとげようとしている地域社会の現実及び地域社会の発展に関する課題を見出すためには、そこで暮らす人々の生活実態を深くとらえることが求められます。本履修系統では、社会調査や実習を通して地域住民と交流するとともに、社会学・人類学・歴史学などの専門的知識を学び、現在およびこれからのコミュニティ創造のための担い手を育成する教育内容を構成しています。

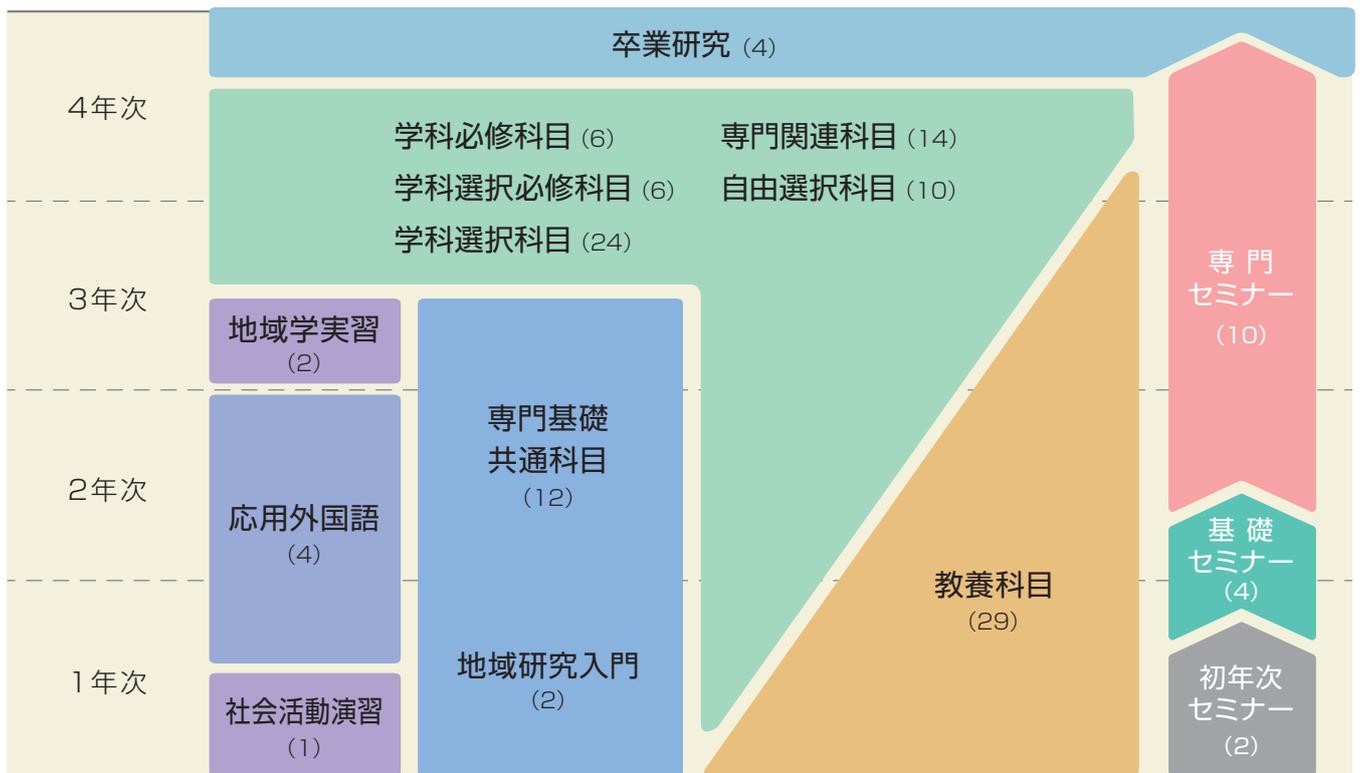
### 人間・文化系統

地域コミュニティは、独自の伝統文化を継承し発展させると同時に、他の社会や文化と積極的に交流することによって、さらなる活力を生み出す可能性を秘めています。本履修系統は、この視点にもとづいて、グローバリゼーションの時代にふさわしく、多様な言語・思想・文化を学ぶことで、地域文化の創造的な担い手を育成する教育内容を構成しています。

# カリキュラムの概要

本学部では、人文・社会・自然の諸科学全般に関する多彩な科目を開設し、総合的な視野から幅広い知識を得ることができる一方で、2年次からは自分が特に興味を持った分野を専門的に学ぶことができるカリキュラムとなっています。また、実際に地域社会の中に出向き、地域が抱える課題に取り組む社会活動演習や地域学実習は全学生の必修科目となっており、現実即した「生きた」知識も学ぶことができます。また、4年間を通じて、少人数でのセミナー教育を行うなど、さまざまな特色ある教育プランを用意し、実践しています。

## 地域科学部でどんなふうに学ぶんだろう？



( )は卒業に必要な修得単位数

## 国際教養プログラムとは？

現代に生きる人々は、グローバル化という大きな流れの中で進むべき道を見つけることが求められます。そのためには、幅広い教養にもとづいた、自分の暮らすコミュニティおよび異文化に対する深い理解が必要となります。本プログラムでは、一年間の海外留学や文理横断的な知識の習得などを通じて、地域社会と国際社会の双方で活躍できる能力を育成していきます。

具体的には右表に示すように、外国語運用能力を高める科目群Aに加え、科目群B,Cの人文・社会及び自然科学の諸分野の学習を通して幅広い教養的学識を身につけます。外国人留学生には、日本に関する知識を深める科目群Dが用意されています。

- 国際教養プログラムには地域科学部の両学科の学生が参加できます。
- 日本人学生は、海外の学術交流協定大学へ一年間の留学（原則として2年生後学期～3年生前学期）を必須としています。留学期間を含めて、4年間で卒業が可能なプログラムとなっています。
- 留学のためには、協定大学の求める語学力水準（TOEFL、IELTSなど）に達していることが求められます。留学の申請は、1年生の9月に行います。
- これまでにプログラムに参加し留学した学生は、2017年度が8名、2018年度は11名、2019年度は11名に上ります。

# 授業科目一覽

学科		地域政策学科			地域文化学科			
履修系統		産業・まちづくり	自治政策	環境政策	生活・社会	人間・文化		
専門基礎科目	必修	初年次セミナー(教養)			地域研究入門	社会活動演習	応用外国語	基礎セミナー
	専門基礎共通科目	地理学 政治経済学 現代経済学 グローバルゼーション概論	法学	記述統計学 微分積分I・II 線形代数I・II 物理学I 化学I 生物学I	現代社会概論 教育・心理学 人間発達概論 近・現代史	哲学 文学 言語学		
専門科目	必修	地域計画論	地域づくり論	推測統計学	社会調査法	ジェンダー論	言語文化論	
	選択必修	計量経済学 日本経済論 地域経済論 経営学	憲法 行政法 民法 行政学	物理学II 環境物理学I 化学実験 都市環境工学 環境調査法	地域社会学 地域史 メディア論 文化人類学	文化基礎論 社会哲学 日本文化論 ヨーロッパ文化論 アメリカ文化論 アジア文化論 社会言語学		
	選択	国際経済論 比較経済体制論 地域産業論 経済地理学 地域振興論 地域解析学 経済政策 社会政策論 労働経済学 消費経済論 会計学 マーケティング論 金融論 公共経済学 環境経済学	地方自治法 労働法 現代政治学 政治過程論 国際関係論 財政学 地方財政論 企業法 刑法 裁判法 環境法	微分方程式 応用解析学 数理計画法 物理学III 環境物理学II 環境物理学III 化学演習 物理化学 生物学II 植物生態学 動物生態学 環境保全論I 環境保全論II システム工学 居住環境と心理	生命倫理学 障害者福祉論 健康教育論 コミュニティ論 地域自治論 社会福祉原論 地域福祉論 老人福祉論 生活支援論 環境教育論 ジャーナリズム論 家族社会学 労働社会学 インターネット社会学 ジェンダー史 コミュニケーション論	言語と社会入門 口頭表現技法論 近・現代思想論 環境思想論 地域文化論 文化受容論 境界文化論 言語理解論 文献学 文化思想史 科学思想論 社会文化論 文化解釈論 表象文化論 文学批評論 言語意味論 言語生活論 博物館学		

		科目群A	科目群B	科目群B	科目群D
専門基礎科目	応用外国語	応用外国語I~IV 応用外国語A/B			
	基礎セミナー	言語と社会A/B			
	専門基礎共通		物理学I 生物学I 哲学	記述統計学 微分積分I 線形代数I グローバルゼーション概論	
専門科目	地域政策学科		日本経済論 憲法 化学実験	地域計画論 民法 物理学II 環境調査法 地域産業論 国際関係論 化学演習 生物学II 社会政策論 推測統計学 居住環境と心理	
	地域文化学科	言語と社会入門 口頭表現技法論	アメリカ文化論 近・現代思想論 言語意味論 文化人類学	ジェンダー論 社会哲学 社会言語学 文化受容論 言語理解論 社会調査法 メディア論 文化人類学 言語文化論 アジア文化論 ヨーロッパ文化論	現代日本の社会 近代化と日本人 日本文学概論 日本の文化芸術

# 社会活動演習

1年生全員の必修科目である社会活動演習は、実習受け入れ先から多くのご支援を頂きながら実施される本学部独特の実習です。学生たちは、岐阜県域の企業・行政・福祉・環境・博物館などの現場における体験・実習を通じて、地域の諸課題を肌で感じながら理解を深めます。そして、岐阜大学が教育目標として掲げる3つの力と9つの要素で構成される基盤的能力、つまり自立的行動力(計画力、実行力、管理力)、コミュニケーション力(傾聴力、発信力、状況把握力)、総合的判断力(課題発見力、創造的思考力、論理的思考力)の育成のための基本的な構えとセンスを養う場として本演習を位置づけています。

具体的には、学生たちは下記の8つのプログラムのなかから希望するものを選択し、それぞれの担当教員の指導のもとで事前学習、原則として夏季休業期間を利用した数日間の実習に参加することになります。いずれのプログラムも「書を捨てフィールドに出ること」にしており、参加学生たちは教室のなかでは決して体験することのできない「生きた知恵と知識」を体得します。

## 2022年度実施プログラム(指導担当教員)

- A : 裁判所・刑務所見学及びその成果発表 (三谷 晋)
- B : 山間地の小学校を起点とした地域づくり (南出 吉祥)
- C : 「まちを研究すること」を考える：  
岐阜市内における景観調査と学内における行動観察 (合掌 顕)
- D : 子どもの自然体験教室のサポーター (稲生 勝)
- E : 市民ラジオ番組の制作 & 番組企画・出演 (野原 仁)
- F : 岐阜市歴史博物館で作業する (加藤 公一)
- G : 広葉樹の植林活動 (府川 純一郎)
- H : フランスの球技・ペタンクを知る (ゲラン,ジル)



市民ラジオ番組の制作 & 番組企画実習の様子



岐阜市歴史博物館で作業する

## 学生の声

2019年度入学 小松 なつ美さん

私は岐阜朝鮮初中級学校を訪問しました。まず、訪問の事前学習として在日朝鮮人当事者で支援活動もしているゲスト講師をお招きし、朝鮮学校が出来た経緯や、差別や偏見の歴史についてお話を伺いました。

その後実際に朝鮮学校を訪問し、実際の授業の様子や生活風景を見学させて頂きました。授業のほとんどが韓国・朝鮮語で行われている様子は新鮮で印象に残りました。また、空調設備が整っていない、古い備品が多いといった、教育施設として十分な設備が整っていない現状も知ることが出来ました。最後に、そこで開かれるバザーにも参加させて頂きました。親御さんや地域の方々も参加する非常に賑わいのあるイベントで、韓国料理を食べたり、民族舞踊を見たりなど、韓国文化に触れることができ、非常に楽しい経験となりました。

この経験を通して学んだことは、上辺の情報だけで知ったつもりになるのではなく、実際に自分で見て、聞いて、実態を知ることの大切さです。元々韓国の文化に興味のあった私にとって、とても意義のある経験になりましたし、日本と韓国の在り方を考え直す良い機会となりました。

# 地域学実習

地域学実習は、3年生の前学期から夏休みにかけて実施されます。講義や専門セミナーで学んだことをふまえて、フィールドに出て調査や活動を実施し、その成果をレポートにまとめるといった一連の作業を通じて、地域の課題の発見と解決に向けて主体的かつ協働的に学ぶ力を養うことを目的とした授業です。

1年生の必修科目である社会活動演習が「体験」を重視するのに対して、地域学実習では授業で2年間学んできたことを前提に、具体的な事実を実証的に解明する「方法」を学ぶことになります。受講学生は下記の7プログラムのなかから興味関心のあるものをひとつ選択し、実習に参加します。



岐阜周辺における地域づくりの比較調査風景

## 2022年度実施プログラム(指導担当教員)

- 柳ヶ瀬商店街はいかにして活気を取り戻しているのか? (甲斐 智大)
- 防災福祉、防災救助の実例 — 自衛隊の取り組みから学ぶ — 『障害者雇用と福祉マネジメント』(小西 豊)
- 都市の形を決める制度、計画、施策についての調査 (應 江黔)
- 「身近なモノ」を理解する (十二村 佳樹)
- 地域社会の企業・行政組織・NPOの参与観察 — インターンシップを通して (伊原 亮司/宇山 翠)
- 下呂市上原地区の昔と今を知る (堀江 未央)
- 歴史史料の整理と扱い方を学ぶ (芹口 真結子)



下呂市飛騨金山の昔と今を知る

実習の成果は「地域学実習報告書」にまとめられるだけでなく、調査でお世話になった地元住民の皆様に対して、さらには他大学で地域学を学ぶ学生との合同研究発表会の場で公表されます。このような場でプレゼンテーション能力を身につけることも地域学実習の目標のひとつです。

## 学生の声

2019年度入学 日比野 雅さん

この地域学実習ではまず、前学期の授業を通して「崩し字」と呼ばれる草書体の読み解き方や資料の正しい保存方法を学ぶなど、実習で歴史資料を扱うための準備をしました。実習本番では夏季休暇中の三日間にわたり大垣市昼飯町にある旧早野邸セミナーハウスにて早野家の歴史にまつわる資料の管理の作業を行いました。実習での主な作業内容は、文書の清掃、読解、記録、保管でした。これらの作業はグループで協力し合いながら作業をするため、コミュニケーション力が求められました。この地域学実習を受講する前は、正直「難しそう…」と思っていましたが、授業で学んだこと、実習を通して体験した事すべてが非常に興味深く、資料を自分の手で実際に保管してみることで人は後世に歴史を受け継ぐために多大な努力をしているのだと実感することができました。自分にとって、この地域学実習は普通の大学生活では経験することができない貴重なことを学び、体験できる特別な授業でした。



# 専門セミナー

2年次後学期から始まる専門セミナーは、地域科学部における教育の基軸となるものです。少人数で開講され、各教員それぞれの専門分野に関連する領域について、学んでいきます。学生の関心・能力に応じたきめ細やかな指導が、4年次の後学期まで継続して、行われ、卒業研究も行っていきます。

各専門分野によって、運営形式はこの専門セミナーでの学びを基に様々ですが、どのセミナーも、学生の関心により近いテーマでの研究を行うため、講義や実習とは異なったおもしろさがあります。セミナーでの議論や思考を通して、問題を発見し、解決する能力を養成することもねらいとしています。

一口に地域科学といっても、そこには対象となる現象が多様多様にありますから、専門セミナーで学ぶテーマは、『地域』を考える上での軸足となります。学生にとっては、セミナー以外の科目は、セミナーを中心に有機的に関連付けられる、ともいえるでしょう。

例えば…

## ■ 宇山 翠セミナー(経済学)

本セミナーでは、日本経済の全体像を理解するために、日本経済を構成する主要な産業・企業の実態について学びます。産業の実態を把握するためには、産業を構成する個々の企業、特に企業数の99%を占める中小企業について理解することが欠かせません。小売業やサービス業などは多くの中小企業によって支えられているし、自動車のような工業製品の生産も多くの中小企業が分業に参加することで成立しているからです。

通常のセミナー活動はテキストの輪読と個人研究報告が中心ですが、長期休暇中には企業への聞き取り調査や工場見学を実施し、産業や企業に関するイメージを広げることも重視しています。このような多様な活動を通じて育まれた問題関心をもとに、研究テーマを決定し、卒業論文を執筆していくこととなります。昨年度の卒業生は、「スポーツのリーダーシップ」、「コミュニティFMの役割」、「スキー場と地域活性化」に関する研究に取り組みました。



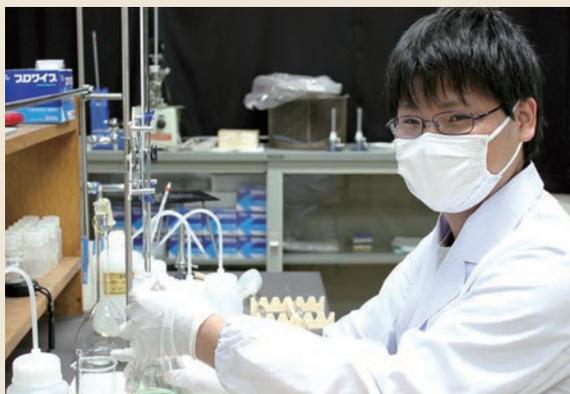
## ■ 和佐田 裕昭セミナー(量子化学)

化学現象の本質は何でしょうか？分子のエネルギーの観点から考えてみましょう。分子のエネルギーは、並進エネルギー、回転エネルギー、振動エネルギー、電子エネルギーからなります。

身近な水分子のエネルギーについて調べてみると、電子エネルギーが、全体の約99.97%を占めることがわかります。このことは、他の多くの分子にも成り立っています。

これは、化学現象の本質に電子の振る舞いが大きく寄与することを意味しています。つまり、化学物質から構成されているこの世のほとんどを支配するのは、電子であると言えるのです。

化学とは、分子中の電子の様子を探り、電子の振る舞いを自由自在にあやつる手だてを考える学問です。その方法には色々ありますが、私たちのセミナーでは、電子の様子を探ったり、その振る舞いをあやつる手段を、電子状態理論の立場から学んでいます。成果のひとつとして、最近、新しい毒性予測ソフトを開発して世界に提供し始めました。



## ■ 小林 亜由美セミナー(20世紀アメリカ文学)

小説は日常における娯楽のひとつとして読まれることが多いですが、その作品が執筆された時代背景や作家自身の伝記、主人公のモデルになった人物、描かれる景色等に焦点を当てて読み進めると、新たな味わいが生まれることがあります。本セミナーでは、英米文学を主な対象に、その味わいを作品解釈として議論します。作品を原書で読むことから始め、小説技法や批評理論に基づく読解に取り組み、テキスト、歴史、文化等、様々な視点からの作品解釈を試みます。また、映像化されている文学作品は、原作と映像作品との比較分析から、作者の創作意図が浮き彫りになることや、固定観念が覆されること等があり、映像を用いた作品解釈の深化も興味深いです。小説という身近な関心事を英語の読解や作品解釈へと発展させ、さらに、文学研究から国際社会における人種や文化といった社会的な事象へも視野が広がるセミナーを目指しています。



## ■ 堀江 未央セミナー(文化人類学)

人類学の視点で世界を眺めてみるとどうなるか？本セミナーでは、文化人類学がこれまで培ってきた「異文化を理解する様々な手法」を学び、それを身の回りのことに向けてみるとどうなるか、みんなで考えています。今まで当たり前だと思っていたことが、世界の様々な事例を学んだあとにもう一度見直してみると、実は当たり前ではないかもしれない。そういった可能性について考えてみるのが本セミナーの思考レッスンです。座学では、世界の様々な民族誌を読みます。家族のかたち、歴史への向き合い方、障がいのあり方など、学生の関心に応じて読む文献も様々です。その後は各自が個々の関心に基づいてフィールドワークを行います。必ずフィールドワークを行うのも本セミナーの特色です。研究テーマは十人十色で、ジェンダーや高齢者福祉、東南アジアの文化に関心がある人もいます。堀江は後方支援をしつつ、実りある調査ができるようサポートします。文献を通して得られる鳥の視点と、自分の足で歩いて得られる虫の視点とを行き来することを通じて、異文化や他者との対話の身構えを身に着け、世界を多角的に把握できる人を育てていくことを目指しています。



## 学生の声

2020年度入学 山口 琴帆さん

私は心理学、教育学、経済学の3つのゼミに参加しています。もともと興味があったのは心理学ですが、様々な講義を受けて、学んでみたい分野が増えたため複数のゼミに参加する形になりました。複数分野を同時に学んできて気づいたことは「学びはそれ1つで完結するものではなく、他の学びと密接に関わりあっている」ということです。何か新しいことを学んだときに、他の学問との共通点が見つかるという経験が多々ありました。それによって社会構造を俯瞰的に捉えることや、ある社会問題に対して多角的な視点から考えることができるようになりました。このような能力が身につくということが、様々な学問を学ぶことのできる地域科学部ならではの特色なのではないでしょうか。「地域」という共通項から知識を広げていくことができるとてもユニークな学部だと思います。その知識を他の知識と結びつける過程は難しく労力を使いますが、それによって得られる新たな学びは何事にも代えがたい自分の財産になるはずです。



## 学生の声

2020年度入学 伊藤 綾那さん

私は甲斐ゼミで地理学を学んでいます。このゼミでは地理学に関する論文を読み、人口移動や地方都市での生活などについて学んでいます。そのうえで、フィールドワーク行い、文献からは学ぶことのできない地域の実態について議論しています。

ゼミ活動を通して農村地域の少子高齢化・過疎化問題について興味関心を持ちました。とりわけ、農村地域への若者の人口移動に関心を持っています。今後、卒業論文の執筆にむけて農村地域への移住者に対する聞き取り調査を行い、若者の流入が顕著な地域の特性について分析していきたいと考えています。



他のゼミ生の研究対象は「地方の若者の就業状況」や「高齢化が進む地域での福祉サービスについて」、「田園回帰」など多岐にわたります。また、今年度は他大学との合同ゼミを予定しています。合同ゼミの機会を活用して、客観的に自分の研究テーマについて深く考察していきたいと考えています。

他のゼミ生の研究対象は「地方の若者の就業状況」や「高齢化が進む地域での福祉サービスについて」、「田園回帰」など多岐にわたります。また、今年度は他大学との合同ゼミを予定しています。合同ゼミの機会を活用して、客観的に自分の研究テーマについて深く考察していきたいと考えています。



# 地域科学研究科

## Admission Policy

### アドミッション・ポリシー（入学者選抜方針）

#### ■ 教育理念・目標

社会、人間のあり方及び自然に関する知見を有し、深い専門性と実践的、創造性豊かな能力によって、自然と調和した地域社会の基盤形成に寄与する人の育成が本研究科の教育目標です。

#### ■ 求める学生像

地域社会、自然環境、人間社会のあり方を探究して、本質的な問題を発見し、それを総合的な視点から解決しようとする意欲と、専門分野の高い知識に加えて、複合的な視野と豊かな学術的知見を追究しようとする意識を持っていることを望みます。具体的には、次のような人を期待しています。

- ・ これまでの知識や経験をもとに、さらなる学問的専門性を身につけ、地域や社会への貢献を考える人
- ・ 自治体、福祉団体、商工会議所などの文化政策・行政政策担当者として活躍しようとしている人
- ・ 地域調査関連の企業・研究機関の研究者や企業の企画調査担当者として活躍しようとしている人
- ・ まちづくり等の地域活動組織で活躍しようとしている人
- ・ さらに高度の知見と専門性の獲得のために博士課程進学や海外研究留学を目指そうとする人
- ・ 国際的に、さまざまな国や地域でその調和ある発展、振興に貢献しようとする人

## Curriculum Policy

### カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

- ・ 人文科学・社会科学・自然科学及びそれらの融合領域分野を幅広く学びながら自然と調和した地域社会について、専門的に探求することのできる高度な能力を育成します。
- ・ 社会生活と人間文化について広く学びながら自立的で協同的な社会システムとそれに相応した文化や社会的関係の在り方を専門的に探求することのできる高度な能力を育成します。
- ・ 地域社会の経済、行政、自然、生活、思想や文化を研究する授業科目を履修することによって、地域社会や人間文化の諸課題を総合的な視点から追究する新しい地域研究の方法を修得します。

## Diploma Policy

### ディプロマ・ポリシー（修了認定・学位授与に関する方針）

教育課程において所定の単位数を修得するとともに、地域の社会や文化が抱えるさまざまな問題を、地域に根ざし地域から構想することで解決し、暮らしやすく平和で文化的に高度な地域社会を創り出すために必要な、より幅の広い視野、より高度な専門応用能力、より大きな国際性を備えた人に修士の学位を授与します。

※抜粋（全文は本研究科HPをご覧ください）

# 専攻紹介

この研究科の主要目的は地域社会が抱える多くの問題をどのようにとらえ、いかなる方向の解決策がありうるか、ということについて研究・教育することです。地域の個性は複雑であり、それゆえ課題に対し定型的な答えが用意されていることはまれです。そこに地域科学という若い学問が必要とされる根拠があります。学部で勉強したことをさらに深めたいという人はもとより、予備知識は乏しくても暮らしやすい地域づくりに何らかのかたちで貢献してみたい、という想いの方を歓迎します。私たちスタッフとともに考え、ともに活動・調査してみましよう。



地域科学  
研究科

## 地域政策専攻

経済・行政・自然環境の諸領域を中心に広く学びながら、生態系と調和した循環型の地域社会について専門的に教育・研究します。

### ● 経済社会領域

経済学の基礎理論、経済政策、ならびに地域づくり、まちづくり、農村振興そして両者が交わる地域経済や産業政策などを研究します。

### ● 行政社会領域

法学の理論と行政法、政治学、および社会政策や地方財政などの領域からなり、行財政政策にまたがるテーマを学びます。

### ● 自然環境領域

自然科学の発展した理論と、生態学、環境科学などを中心としており、循環型社会づくりに向けた研究を行います。

## 地域文化専攻

社会生活や人間文化にかんする諸領域を中心に広く学びながら、新たな人間社会とそれに照合した人間のあり方を専門的に教育・研究します。

### ● 社会生活領域

社会学・社会福祉学・歴史学・人類学等をベースにしなが、人々の生活意識の解明を通して、望ましい生活環境づくりに向けた研究を行います。

### ● 人間文化領域

哲学・文学・言語学・教育学・心理学等をベースにしなが、文化的存在としての個人および社会の望ましい姿を追求します。

# カリキュラムの概要

- **特別演習 I・II・III・IV**：指導教員と相談して修士論文のテーマを決め、その準備・作成を行います。
- **特別研究**：指導教員の指示を受けて、1年次前期の夏季休業中などに集中的に行います。
- **選択必修科目**：地域政策専攻で3(経済社会、行政社会、自然環境)、地域文化専攻で2(社会生活、人間文化)、計5つの教育研究領域に各2科目ずつの選択必修科目があり、この中から2科目(4単位)以上を履修します。
- **自由選択科目**：各教育研究領域ごとに4～14の自由選択科目があり、所属する専攻の科目として6科目以上と、この他に所属専攻もしくはもう一つの専攻の科目のうちから、2科目以上、併せて8科目(16単位)以上を履修します。専門的な分野と幅広い関心に合わせて授業を選べます。非常勤講師による特別講義の他、学内の他の研究科や、他大学の大学院(互換協定を持つのは岐阜経済大学)の単位も認められます。

## 授業科目一覧

専攻	地 域 政 策			地 域 文 化		
領域	経済社会	行政社会	自然環境	社会生活	人間文化	
選択必修科目	理論経済学特論 比較経済体制論特論	行政法特論 行政学特論	環境物理学特論 環境心理学特論	メディア論特論 生活指導論特論	価値哲学特論 文化解釈論特論	
自由選択科目	計量経済学特論 地域産業特論 経済地理学特論 中小企業論特論	憲法特論 社会政策特論 民法特論 地方財政論特論	保全生態学特論 数理システム特論 数理化特論 環境計算化学特論 都市環境工学特論 数理物理学特論	地域社会学特論 社会福祉論特論 労働社会学特論 歴史学特論 現代史特論 地域福祉論特論 社会人類学特論 文化人類学特論	日本思想史特論 生命倫理学特論 自然哲学特論 健康教育学特論 日本近代文学特論 表象文化論特論 英語圏文学特論	心理学特論 言語文化論特論 言語教育学特論 ドイツ文学特論 社会言語学特論 中国文学特論 中国語学特論
地域科学特別講義 I・II・III・IV・V・VI						
特別演習 I・II・III・IV			特別研究			

## 学生の声

2021年度入学 柳 颯雨さん



柳颯雨と申します。大連東軟情報学院日本語専攻を卒業しました。2018年に京都産業大学の交換留学生として、日本に留学した経験があります。その時から日本文化に興味を持ち、その結果、日本の大学院に進学することに決めました。現在、自分が深く興味がある環境の中で学び、生活し、日本文化を真正面から感じたいと思っています。

大学のクラスメートに中国貴州省出身の少数民族の学生がいました。しかし、中国語しか話せません。今中国の多くの若い少数民族が、自分の民族の言葉をあまり話せなくなっています。少数民族語が話せる人は本当に貴重です。幸いなことに、大学のルームメイトが、自分の母国語を話せる景頗族の友達を知っていました。それで、私は、修士論文のテーマとして、景頗語の統語論について研究しようと思いました。自分の研究が何かの貢献になってほしいと思っています。この観点から勉強したいと思っています。

私は、高校時代から言語に興味がありました。そして、大学では自分で韓国語を勉強しました。今は日本語と英語を勉強して、暇な時は自分の趣味として韓国語の能力を向上させています。今の社会では、一つでも多く言語を身につけるのは価値があることだと思います。

## 進学・就職概要

本学部卒業生の就職状況の特徴は、(1)公務員となる学生の割合が高いこと(2021年度卒業生では全就職決定者102名のうち40名(39.2%)、(2)地元企業への就職が多いこと、(3)金融・保険業への就職は多いものの、卸売業、小売業、製造業、情報通信業、運輸業等、多くの業種に幅広く就職していることが挙げられます。

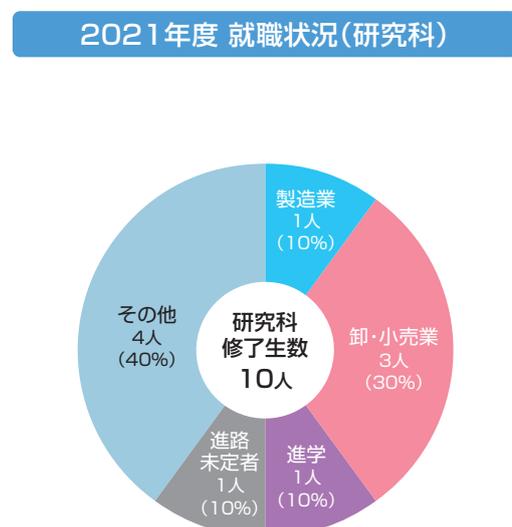
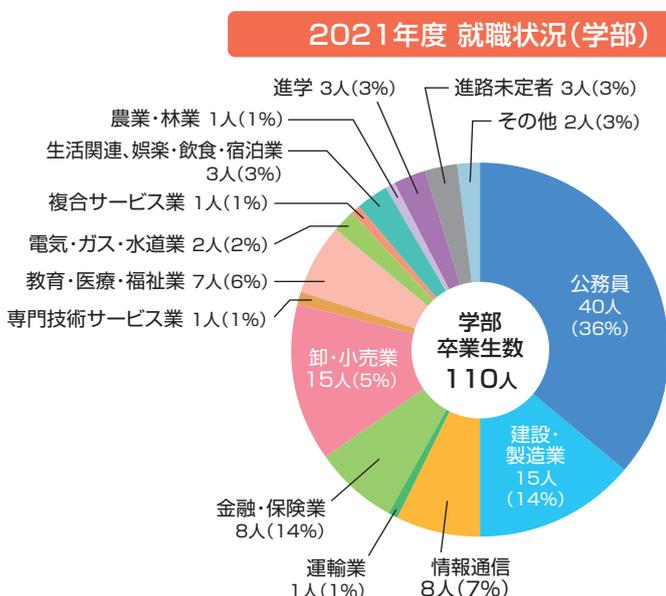
このように卒業生たちがさまざまな業種に進む傾向にあることは、総合的・学際的な学部である本学部が目標とする学生教育(人文、社会、自然科学の多種多様な観点・立場から、地域の諸問題を総合的に捉えることのできる人材を育てる教育)のひとつの成果であるともいえます。

就職状況は他大学と比べても非常に良好といえます。就職不況の際にも本学部の就職状況は全国的にみても高い就職内定率を達成しており、ポテンシャルの高さを示してきました。2021年度は、新型コロナウイルス感染症流行の影響により大学生の就活は困難な状況に置かれていましたが、本学は良好な傾向を維持することができました。就職内定率(就職希望者における決定者の割合)は2021年度卒業生では97.1%となっています(2017年度から2021年度の過去5年間を平均すると、卒業時の就職内定率は平均で97.5%です)。

こうした好調な就職状況の背景には、本学部の学生自身が熱意を持って就職活動に取り組んでいることがまず挙げられますが、そのほかにも、学部として学生の活動をサポートするために指導教員をはじめ、就職担当委員の配置によって学生からの相談に迅速かつきめ細やかに対応していること、大学全体のガイダンスとは別に学部独自の就職ガイダンスを実施していること(就職活動を経験した本学部学生の生の声が聴ける等)、数年に一度、卒業生が就職した主な企業に全教員が手分けして出向き、企業担当者から卒業生の仕事ぶりや採用状況を調査・検討していること、などの取り組みがなされています。さらに卒業後のサポートもしています(就職後のトラブルへの対応をしたり、転職や仕事上の悩み等の相談に応じたりしています)。

今後も、広い視野と知性を備えた地域を担う人材を育成し、自治体、企業、諸団体の期待に応えていきたいと考えています。

大学院の就職状況に関しては、大学院生には留学生、社会人が多く、留学生は修了後帰国するケースが多いことなどもあり、就職希望者が少ないです。2021年度は、修了生10名の中、日本における就職希望者が5名おり、4名の就職が決まっています。近年では、留学生でも日本国内で専門家として就職をする場合も多くなってきています。



# 進路

## 学部 2021年度卒業生進路状況

(2022年5月1日現在;カッコ内は人数で1名の場合は省略)

<b>公務員(40)</b> 厚生労働省(3) 中津川市 国土交通 関市(2) 財務省(4) 美濃市 法務省(3) 山県市 岐阜県(6) 名古屋市長 愛知県 あま市 岐阜県警察(2) 刈谷市(2) 岐阜市(3) 弥富市 各務原市(3) 常滑市 大垣市 浜松市 瑞穂市	<b>建設・製造業(15)</b> (株)アッシュホーム 日産工業(株) 名工建設(株) (株)STIフードホールディングス (株)長坂養蜂場 (株)ントー (株)ハーモニック 高桑美術印刷(株) 西濃印刷(株) リファインホールディングス(株) 京セラインダストリアルツールズ 三菱商事テクノス(株) (株)アイシン (株)豊田自動織機ITソリューションズ ドリームスデザイン(株)	<b>情報通信(8)</b> (株)アシストプラス (株)インフォファーム(2) (株)セイノー情報サービス (株)メイテツコム (株)リード アビームシステムズ(株) イーテクノロジー(株)
<b>卸・小売業(15)</b> (株)兼松KKG (株)西部管商 (株)八神製作所 (合)西孝 だるまミート(株) ミク二電機(株) 教育産業(株) 住友商事マシネックス(株) 新日本ファスナー(株) 豊通オートモーティブクリエーション(株) (株)サンドラッグ (株)パロー Genky DrugStores(株) トヨタカローラ岐阜 マックスバリュ東海(株)	<b>教育・医療・福祉業(7)</b> ごとう歯科 日本赤十字社岐阜県支部 山梨厚生病院 (株)FPO (有)壮優館 ケアシステム(株) 社会福祉法人桜友会	<b>電気・ガス・水道業(2)</b> シン・エナジー(株) 中部電力パワーグリッド(株)
<b>金融・保険業(8)</b> (株)十六銀行(2) いちい信用金庫 岐阜県信用保証協会 岐阜信用金庫 日本年金機構 三井住友海上火災保険(株) 明治安田生命保険相互会社	<b>運輸業(1)</b> 旭運輸(株)	<b>専門技術サービス業(1)</b> 特許業務法人 オンダ国際特許事務所
<b>複合サービス業(1)</b> 岐阜県農業協同組合中央会	<b>生活関連、娯楽・飲食・宿泊業(3)</b> (株)星野リゾート (株)トーカイ (株)日本ケアサブライ	<b>進学(3)</b> 岐阜大学地域科学研究科 京都大学大学院 大阪大学大学院
<b>農業・林業(1)</b> 暮らすファームSunpo		

卒業生数	就職希望者数	就職決定者数	進学者数	進路未定者数	その他	就職率 (就職決定者数 ÷ 就職希望者数)
110名	105名	102名	3名	3名	2名	97.14%

## 研究科 2021年度修了生進路状況

(2022年5月1日現在;カッコ内は人数で1名の場合は省略)

<b>製造業(1)</b> 中央発條(株)	<b>卸・小売業(3)</b> 光通信システム(株) 合同会社夸父 三神合同会社	<b>進学(1)</b> 千葉大学大学院融合理工研究科
--------------------------	--	--------------------------------

修了生数	就職希望者数	就職決定者数	進学者数	進路未定者数	その他※1	就職率 (就職決定者数 ÷ 就職希望者数)
10名	5名	4名	1名	1名	4名	80.00%

※1 社会人修了生を含む

## 先輩たちの声

## 地域科学部 卒業生

2020年度地域科学部卒業

坂口 功さん



地域科学部を卒業し、現在は石川県の自然豊かな土地で「食」の力で町を社会を変えていくチームの料理人として活動しています。

地域科学部の魅力は幅広い分野の学問に触れることで、自分の学びたい事、やりたい事を発見できるところにあると思います。私自身、高校時代は受験のため与えられた勉強しかしてこなく、やりたいことが見つからないまま地域科学部を受験しました。入学後は政治学や法学から物理学、化学と幅広く受講し徐々に自分が何に興味があり学んで行きたいのかがハッキリしていきました。そういった講義の中には学外に出て情報を集めたり、体験してみたりというものもあり、問題に対しより深く洞察し仲間と考えを深めることができました。こうした活動が社会人としての仕事の取り組み方の支えになっています。その上で2年次後半にゼミを選択して自分の専門を決めます。自分は「食、調理」について研究をするため、自然科学系のゼミに所属しました。研究の中で「食」は文化的な側面も大きいいため幅広い専門の先生が所属している地域科学部の利点を生かし、文化を研究する先生にもご指導いただきました。

幅広い分野を学ぶことができる地域科学部では、今までの人生で出会ってなかった自分のやりたい事を発見でき、またやりたいことがある人にとっても、それだけを専門で学ぶ人より多くの視座からそれを捉えるができるようになると思います。

私は、大学時代に学んだ幅広い知識や経験を活かし、さらに突き詰め「食」で地域を活性化できるような料理人になり岐阜に戻ってきてオーベルジュを作りたいと思っています。そして、いつかこうした経験を学部の方へお話できるようになりたいというのが小さな夢です。ぜひ、地域科学部で広く学び自分の学びたいことを見つけて下さい。

## 地域科学部・大学院地域科学研究科 修了生

2012年度地域科学部卒業  
2014年度大学院地域科学研究科修了

宮田 恭兵さん



愛知県(現所属:尾張県民事務所)

私は学部・研究科と三谷研究室に所属し、危機管理について研究しました。本邦の危機管理体制は災害対策基本法を中心に整備されていますが、研究を進める中でそもそも管理すべき「危機」とは何か、危機に強い行政組織とは何かという疑問へと興味関心分野が広がりました。

このように、純粋な法学とは言い切れない分野の研究をするにあたり、地域科学部・研究科では様々な専門分野を研究する教員の方々が所属するため、その先生に相談することも可能です。また、他の研究室で異なる興味関心分野を持つ学生や院生と、意見を交換することもできます。これらの環境から得られる多角観は、私にとって重要な価値観となっており、会社等の組織に属してからは得難い経験だとも言えます。

現在は、愛知県庁の尾張県民事務所防災安全課に所属し、県災害対策本部の地域支部となる尾張方面本部の要員として、管内18市町の地域防災計画や国民保護計画の指導や、防災体制整備のための補助金交付事務を行っています。また、他所属の県職員に対し防災研修を実施し、被災した県内市町村に県職員を派遣できる体制を整備しています。

幸いにも、現在の所属は自身の研究分野で得た知見が活かせる環境にあります。専門的な視点だけでなく先に述べた多角観の存在は、様々な主体が複合的に混在する防災の現場において重要な視点であり、ジェネラリストや学際的な知識が求められる昨今では、是非とも地域科学部・研究科で取得して欲しい価値観だと実感しています。

# 地域科学部の活動と成果

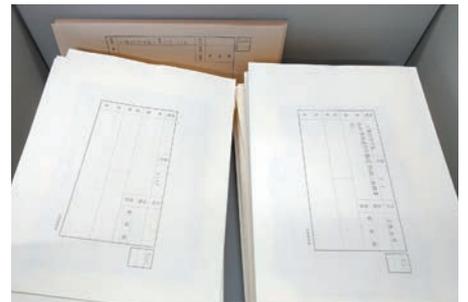


## 地域資料・情報センター

URL <https://www1.gifu-u.ac.jp/~forest/rilc/>

地域資料・情報センターには、岐阜県内の市町村(平成の合併前の市町村分を含む)の様々な行政・歴史・伝承・文化・観光資料に加えて、500点以上の「水」関係の資料があります。「水」は「ヒト」を含む全ての生物の源であるという観点から、環境・生活・経済・工学・伝承というように、様々な視点から学際的に収集を行っております。特に、岐阜の地域資料として、清流「長良川」の河口堰建設や、徳山ダム建設に関して、50年以上に渡る住民運動の具体的な動き、政治活動、海外環境団体の動き等3000点以上の資料を関係者から寄付していただき、整理しております。これらの資料項目は、一部の個人情報を除き、HP上に乗せ、閲覧、貸し出しもを行います。地域史研究者に活用していただけるようFacebookで案内しています。

また、岐阜県を中心とした東海地域の史料を収集・整理し、目録の作成も行っています。現在は、教育学部が所蔵している「池田郡八幡村竹中家文書」(現・池田町)の史料整理を進めています。竹中家は、江戸時代に八幡村で庄屋をつとめた家で、総数5400点以上にもなる史料群は、村落の紛争や治水、中山道に関する史料など、豊富な内容を含んでいます。年1回発行している『地域史料通信』では、史料整理を進める中で発見した、興味深い史料を紹介しています。昨年度は、史料整理を終えた、郡上市野々倉地区に伝来している近現代史料を記事にして紹介しました。近世史料についても、姫君の輿入れと中山道をテーマに、「竹中家文書」と、同じく教育学部所蔵の「村木家文書」と合わせて紹介しました。今後も、多くの皆様に地域史料の魅力をお伝えし、活用できるように、目録の作成と『通信』の発行を続けていきたいと思っております。



## 毒性予測ソフトウェアによる効率的な化合物開発

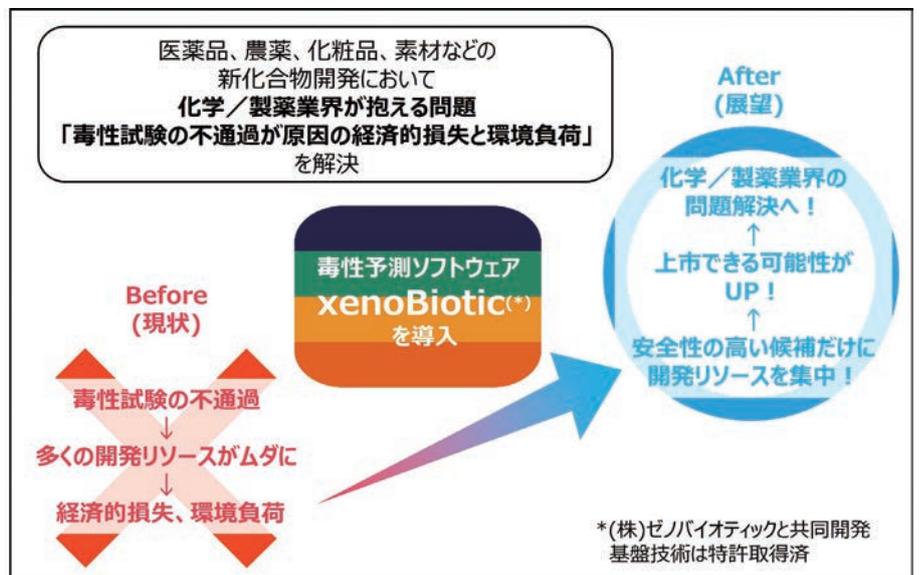
化学メーカーが医薬品や農薬、化粧品、添加剤等を対象として、有益な機能を持つ新しい化合物を開発して売り出すためには、法令やガイドラインに規定された毒性試験を通過しなければなりません。せっかく新しい化合物を開発しても毒性試験が通過できずに失敗する場合も多く、この経済的損失は世界の化学業界全体で年間2000億円以上に上ると推計されます。

この課題を解決するために、私たちは新しい化合物の Ames試験(\*) の結果が予測できる化学者向けの毒性予測ソフトウェア「xenoBiotic」を「岐阜大学発ベンチャー」に認定されているゼノバイオティック社(<https://xenobiotic.jp/>)と共同で開発しています。ソフトウェア開発にあたっての基盤技術について特許を取得しました。

また、地域科学部教員5名で企画した「毒性予測ソフトウェアによる効率的な化合物開発の支援」は「地域展開ビジョン2030 地域創生プロジェクト」の一つに選定されました(図)。

新化合物開発において、毒性試験が通過できないために生じる経済的損失などを大幅に低減することができるよう、xenoBioticの予測精度向上および早期実用化を目指しています。

※世界的に普及している遺伝毒性試験。ネズミチフス菌4種と大腸菌1種の計5種の菌が、試験物質によってどの程度の突然変異を起こすかによって遺伝毒性の有無を判定する。



プロジェクト概念図(『地域展開ビジョン2030 地域創生プロジェクト』冊子より)

## 岐阜大学公開講座（地域科学部企画）

地域科学部では研究成果を公開講座として高校生以上の一般の方々に提供しています。20年間にわたって講義形式のものから「まちあるき」体験のようなものまでバラエティーに富んだ企画を展開してきました。例年、参加者から知的好奇心を満たすことができたという好評を博しております。大学での学びに興味のある方なら、どなたでも無料で参加できますので、是非とも地域科学部の公開講座に足をお運びください。

2022年9月に公開講座を開催する予定です。講座内容は「〈感染症文学〉からの学び —— 森鷗外の文明批評と自己探究」（日本近代文学）、「コロナ禍で浮上した現代地方自治の課題」（行政学）、「アフターコロナにおける学びのスタイル」（メディア学）、「プーチンのロシアーパンデミックからウクライナ侵攻へ」（国際経済学）などで準備を進めております。詳細は大学ホームページなどをご覧ください。



## 高校生のための街なかオープンカレッジ

「地域」が大学での学びの対象となることを体験し、地域での活動に興味をもってもらうため、地域科学部が主体となって、地元自治体や高校と「街なかオープンカレッジ」を岐阜県各地で開催しています。

2021年は8月に関市で、10月には恵那市にて、「まち」を素材に「研究」ということ、「まち」を素材に「稼ぐ」ということを主題としたオープンカレッジを開催しました。地域で活躍する団体の職員などの講義を受け、実際にまちあるきに繰り出し、地域活動の取組について話を聞くなどし、高校生たちが自ら気づくことができる時間になりました。その後のワークショップでは、まちづくりについて考えるとともに、大学での少人数の主体的な学びを体験することができました。今年度も開催に向けて調整を進めておりますので、高校生のみなさんは是非ともご参加ください。



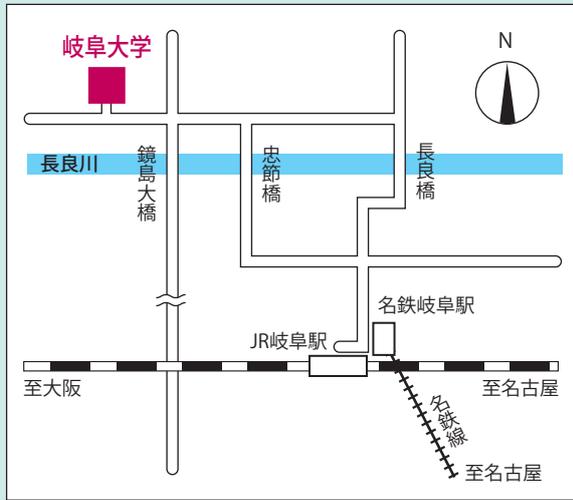
# 教員一覧

(2022年6月1日現在)

学科	講座	職位	教員名(専門分野)	研究内容のキーワード		
地域政策	地域政策	教授	山本 公德(行政学)	現代国家、官僚制、地方行政、公共性		
			立石 直子(民法学)	家族生活と法、子どもの人権、ジェンダー法、法と心理の協働		
		准教授	小西 豊(比較経済学)	経済システムの国際比較、比較企業、比較制度分析、企業と社会、CSR		
			三谷 晋(行政法)	行政訴訟、行政手続、環境訴訟		
			柴田 努(理論経済学)	日本経済論、政治経済学、現代資本主義論、経済のグローバル化		
		助教	宇山 翠(経済学)	産業集積、中小企業、産業発展、企業間関係、下請、地域		
	小牧 亮也(憲法学)		民営化、憲法の適用範囲、憲法規範の実現、公共性			
	地域環境	教授	甲斐 智大(地理学)	経済地理学、都市社会地理学、労働の地理学、地域労働市場、保育サービス、多様な働き方		
			和佐田裕昭(量子化学)	電子状態、コンピュータグラフィクス、化学反応制御、溶液内の化学反応		
			應 江黔(情報工学)	情報処理、交通システム分析、交通に関わる経済問題		
			合掌 顕(社会工学)	建築環境工学、バリアフリー、環境心理学、景観評価		
		准教授	向井 貴彦(保全遺伝学)	生物地理、生物多様性、DNA分析		
			橋本 智裕(理論化学)	分子軌道法、励起状態、大気化学反応		
			神谷 宗明(物性物理学)	密度汎関数理論、線形応答理論、Coupled-Cluster理論、非線形光学		
			十二村佳樹(都市環境工学)	ヒートアイランド現象、都市環境気候地図(クリマアトラス)、GIS		
			助教	中塚 温(統計物理学)	量子モンテカルロ法、自由エネルギー、相対論効果	
		地域文化	地域文化	教授	内海 智仁(アイルランド文学)	小説論、アイルランド、モダニズム
					内田 勝(18世紀英文学)	文化研究、ポップカルチャー、文化史、日常の中の物語
					洞澤 伸(社会言語科学)	コミュニケーション、「若者言葉」、携帯電話、ことばと文化・社会
橋本永真子(現代中国語学)					日本と中国のコミュニケーション、ことばと文化、場面と表現、言語と意味と機能	
牧 秀樹(言語学)	生成文法					
笠井 千勢(英語教育学)	第二言語習得論					
准教授	ゲラン,ジル(フランス語)			フランス語		
	フランクシュタイン,アレクサンドラ(ドイツ語)		ドイツ語			
	柴田 和宏(哲学史)		西欧初期近代の自然哲学、物質と生命、自然観、哲学史・科学史			
助教	小林亜由美(20世紀アメリカ文学)		アメリカ文化、ジャズ・エイジ、ハーレム・ルネッサンス			
	府川純一郎(社会哲学)		批判理論、承認論、自然倫理学・美学、善き生			
地域構造	教授		野原 仁(ジャーナリズム論)	メディア政策、ジャーナリズムと権力、メディアと市民参加、テレビ文化、映像表現		
			伊原 亮司(労働社会学)	管理と労働、技術、組織、権力		
	准教授		南出 吉祥(生活指導論)	教育・福祉・労働、若者の自立、居場所、支援、貧困		
			加藤 公一(現代史)	戦争と平和、国際関係史、現代アメリカ社会		
	助教		堀江 未央(文化人類学、地域研究)	家族、ジェンダー、移動、西南中国、少数民族		
			峰尾菜生子(心理学)	現在の社会と人間の心理、社会関係の中での発達、社会観、青年期の発達		
		芹口真結子(歴史学)	日本近世史、近世宗教史、仏教教団と幕藩権力、民衆教化			

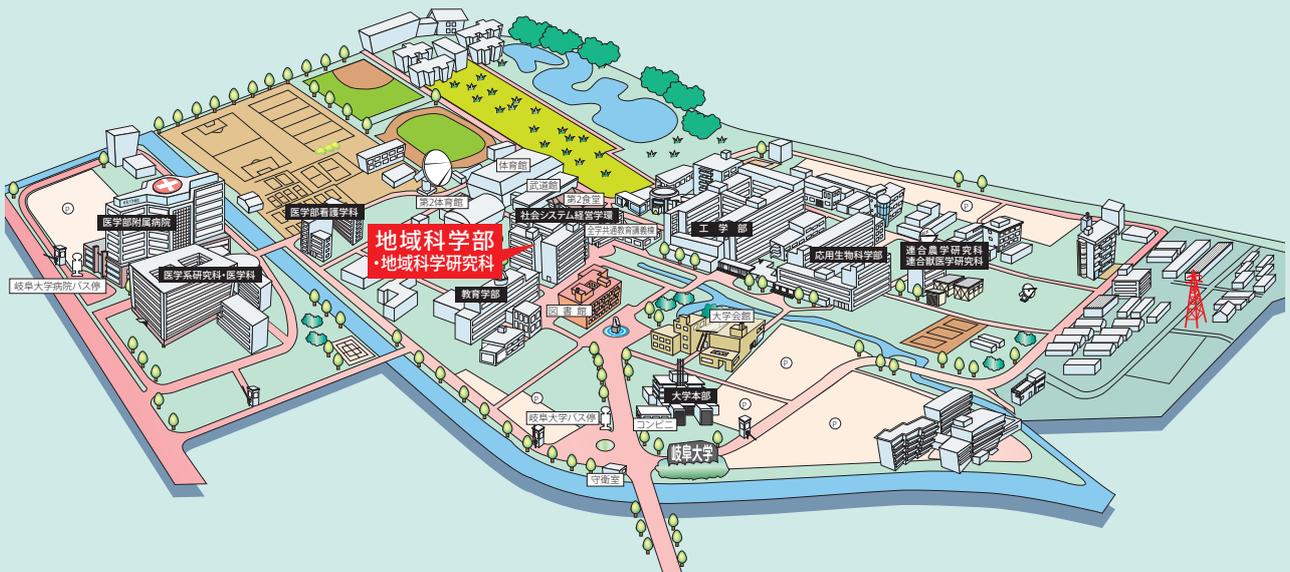


# Information



## ACCESS

- JR岐阜駅から北西へ約7kmの場所にあり、  
JR岐阜駅前(北口)・バスターミナル9番のりばから  
岐阜バス岐阜大学・岐阜大学病院行きで約30分  
(JR名古屋駅からJR岐阜駅まで東海道本線新快速で約20分)
- 名鉄岐阜駅から北西へ約7kmの場所にあり、名鉄岐阜駅前4番、  
5番のりば及びバスターミナルEのりばから岐阜バスで約30分
- JR岐阜駅、名鉄岐阜駅からタクシーで約20分



お問い合わせ先

## 岐阜大学地域科学部

〒501-1193 岐阜市柳戸1番1

TEL.058-293-3009(ダイヤルイン) FAX.058-293-3008

<http://www.rs.gifu-u.ac.jp/>